

平成24年度 第1回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 :平成24年7月17日(火)18:00~20:00

II. 場 所 :私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 :萩原委員(spreed)、川島委員、名取委員(spreed)
(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 学力実現に求められる教育改善モデルの検討

日本の大学では医学系大学以外で、なかなか教育力評価が実施されていない。また、教育指導能力の評価基準も確立されていない。そこで各委員会で教育力の評価基準について検討することにした。具体的には「政治学教員に期待される専門性」「(これまでに作成した)教育改善モデル実現に求められる教育力」「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」の3段階構えでその枠組みを策定することにした。

(1) 政治学教員に期待される専門性

- ・ここでは主に教員として持つべき姿勢(使命感・責任感)を標榜する。
- ・教員側にも、常に社会と関わっているという意識が必要である。
- ・気づきよりも考えるような学びをさせることが重要。
- ・「答え」を教えていくのではなく、自分で考え、主体的に取り組ませるようにすべき。ティーチングというよりもコーチングが求められるのではないか。
- ・政治学のみならず、関連諸領域にも広く関心を持ち、学際的に取り組む姿勢が重要ではないか。
- ・政治学においても個々の専門領域にとどまるのではなく、幅広い領域をカバーするとともに、その相互補完性を十分に理解する必要があるのではないか。
- ・一般化された理論とともに、個別性・特殊性・時代性も的確に把握しておく必要があるのではないか。
- ・大教室の講義においても、一方的な授業ではなく、双方向性を意識した教育を行う必要があるのではないか。また一口に双方向性といっても、結果を重視するのではなく(答えを与えるのではなく)プロセスを重視することが求められるのではないか。

などの意見が出され、「政治学教員に期待される専門性」として最終的に7項目にまとめられた。

(2) 教育改善モデル実現に求められる教育力

- ・シラバスが重要である。シラバスに書いたことをきちんと実施することが求められる。加えて、シラバスを書くときにアドミッション・ポリシーとの関連付けを重視することが重要。
- ・学生に事前事後学習を行わせるための環境・仕組みづくりを進めることが重要ではないか。
- ・上位年次の各授業においても、それまでの関連各授業と連携していることを教員側が十分に理解するとともに、学生にも継続的に学習が進められることを意識させられるような仕組みを構築・支援できることがもとめられるのではないだろうか。
- ・他の教員や社会における専門家などの協力を得ながら教育を進められるよう、教員には外部とのネットワークを積極的に広げるような活動も求められるのではないだろうか。
- ・授業評価や講義中のコメントシートなどを用いて、大教室講義であっても、学生の到達度に合わせた講義を進めていくことが必要ではないか。教員が一方的に講義を行い、学生が十分に理解をしないまま先に進めていくような教育には問題があるのではないだろうか。

などの意見が出され、「教育改善モデル実現に求められる教育力」として最終的に6項目にまとめられた。

2. 今後のスケジュールについて

(1) 今後の検討課題

- ・「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」についてまとめる。

(2) 次回の委員会

日時：平成24年7月30日 17:00～19:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局

以上